

Alert

反天皇制運動 2号
[通巻 384号]
2016年
8月9日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

| | | | | | | | |
|----------------|--------|-------------------------|--|--|--------|------|--------|
| 会情報 | ● 18 | 反天ジャーナル | ● — * 3 | 今月の Alert ● 天皇主導のXデーがやつてきた！ — 8 · 15 反「靖国」行動 — * 2 | | | |
| 太田昌国のみたび夢は夜ひらく | (75) | ネットワーク | ● 9 · 4 各エリアにおける監視・抗議行動、報告集会へ — 藤田五郎 * 8 | ● 「beautiful Japan!!!!」に何の因果関係を見るのか — 太田昌国 * 9 | | | |
| マスクミジカケの天皇制 | (02) | — 完成された（違憲天皇制）のヘゲモニーの下に | — 天野恵一 * 10 | ● 天皇代替り（Xデー）の政治が始まつた！ | | | |
| 反天連声明 | — * 11 | 野次馬日誌 | — * 13 | 集会の真相 | — * 16 | 反天日誌 | — * 18 |

天皇制批判には文化的視野も必要だ。その一つは男権主義的文化観の検討だろう。そこで私の愛読書「源氏物語」について以下を。この本は注に頼って文を追うのさえ大変だから実際通読した人はそう多くないだろうが。

この小説を本居宣長の「もののあはれ」（人がものに感ずる情、やむにやまれぬ心をそのままに表わすのをよしとする価値意識）を基準として理解する人が多い。宣長の「ますらをぶり」に対して「たをやめぶり」を高く見る文化観はたしかに一つの見識だろう。しかし私は「源氏」を読んで宣長の考えに首をかしげる点もある。この小説を構成する多くの恋において、男はひたすら「情」をもって女に迫る。それが成就すれば愛人関係・夫婦関係（これを「世」と称する）が成立する。ところがそこに安逸を感じる男に対して、女の方は、この関係の中で自分はいったい何か、に悩み、苦しみ、結局ある意志力を持ってそこから脱出するものも多い。「源氏」は別れ話の集合のような感もある。宣長は「もののあはれ」を男女一般について言う。ところが「源氏」では、男はたしかに「直情」に生きるが、女の方には「知」・「意志」・「反省力」が目立つのだ。宣長から見ての「さかしら」だ。

「源氏」が描く男女関係自体はこの時代の普通の姿。しかしこの「世」を、女が心をひかれざるをえないような理想的な男（作者は光源氏をたぶんわざとこう造型した）との関係として設定し、まさにそこに成立する不安・悩み・苦しみをえぐることで、問題の血の出るような切り口を描くことができたのだろう。

だから私は、「源氏」を一個の思想小説、現代のわれわれにも痛切に問題を投げかける思想小説だと思っている。この考え方で「源氏」を少人数で読みあうことを余生の一部にしたい、と思うことがある（信天翁）



●定期購読をお願いします（送料共年間4000円）

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net

250円

今月の
Alert

天皇主導のXデーがやってきた! — 8.15 反「靖国」行動へ!



七月に行われた参院選は、改憲勢力が非改選を含め改憲発議に必要な三分の二を超える議席を獲得する結果で終わった。八月三日には内閣改造と自民党役員人事が行われ、主要な閣僚は大半が留任し、防衛相には稻田朋美を起用した。新聞は「首相が考える安保政策をそのまま自衛隊の活動に反映させていく体制をつくった形」と評し、防衛相経験者による「防衛相の振る舞いを周辺国はよく見ていい有事がエスカレートすることもある」という危惧するコメントを紹介している。

連合国が戦犯らを裁いた東京裁判を不当だと訴え、「伝統と創造の会」を設立し、以来毎年、サンフランシスコ講和条約が発効した四月二八日と八月一五日に靖国神社を参拝しているウルトラタカ派である。

女性の防衛相は小池百合子に続く二人目だが、「日本会議」の副会長を務める小池は都知事選で大差で勝利している。その都知事選で、「在特会」の前会長である桜井誠が「選挙の自由」を盾にヘイトそのものの選挙演説を行い、一万多票の票を獲得した。その結果に正直驚愕したが、安倍や稻田、小池の本音がむき出しの形で表れているのが、桜井と言えるわけで、少なくない数の人々が、彼らを支持するこの状況だからこそ、私たちは歴史に向き合い、検証していく作業を粘り強く継続する努力がなお一層求められていると改めて強く思う。落胆している暇などないのだ。

参院選の直後に、沖縄高江のヘリパット建設が本土から五〇〇人という機動隊を動員し

な閣僚は大半が留任し、防衛相には稻田朋美を起用した。新聞は「首相が考える安保政策をそのまま自衛隊の活動に反映させていく体制をつくった形」と評し、防衛相経験者による「防衛相の振る舞いを周辺国はよく見ていい有事がエスカレートすることもある」という危惧するコメントを紹介している。

連合国が戦犯らを裁いた東京裁判を不当だと訴え、「伝統と創造の会」を設立し、以来毎年、サンフランシスコ講和条約が発効した四月二八日と八月一五日に靖国神社を参拝しているウルトラタカ派である。

女性の防衛相は小池百合子に続く二人目だが、「日本会議」の副会長を務める小池は都知事選で大差で勝利している。その都知事選で、「在特会」の前会長である桜井誠が「選挙の自由」を盾にヘイトそのものの選挙演説を行い、一万多票の票を獲得した。その結果に正直驚愕したが、安倍や稻田、小池の本音がむき出しの形で表れているのが、桜井と言えるわけで、少なくない数の人々が、彼らを支持するこの状況だからこそ、私たちは歴史に向き合い、検証していく作業を粘り強く継続する努力がなお一層求められていると改めて強く思う。落胆している暇などないのだ。

参院選の直後に、沖縄高江のヘリパット建設が本土から五〇〇人という機動隊を動員し

て暴力を伴い強行・再開された。福島の原発事故などなかつたかのように、川内原発に続き八月に伊方原発の再稼働も行われようとしている。老朽化が進む原発も次々に再稼働へのGOサインを規制委員会は出した。

歴史から学ぼうとする姿勢が全くない。日本の侵略戦争・植民地支配における天皇制の責任も、すべて自分たちに都合のいいように解釈し、まったく同じ過ちを繰り返そうとしている。個人の尊厳など邪魔なだけ駒に過ぎないという「國体護持」の思想が、現在の沖縄の問題や原発の問題に如実に表れている。

今年も8・15に向けて、私たち反天連も参加する実行委は、「聖断神話」と「原爆神話」を撃つ8・15反「靖国行動」を準備し、七月三〇日には日本近現代史研究の千本秀樹さんをお招きし、前段討論集会を行った。(集会報告参照)。

その集会の前の七月一三日、反天連も予期していなかった天皇の「生前退位」の意向が突然NHKから報道された。

私たちにはこれを、天皇制が主導する「Xデー」状況」と位置づけ、声明をだしたのでご覧いただきたい。「反天連からのよびかけ」01と

ちょうど一年前の八月一五日の「全国戦没者追悼式」や、その二ヶ月後の「全国豊か

な海づくり大会」でアキヒトは手順を間違った。反天連声明に記したように、年齢のせいでも「公務」が十分果たせなくなつたという思ひが今回の「生前退位」の意向表明の背景にある、とマスメディアは一致した報じ方をしている。国民のことを一身に思い、高齢にもかかわらず激務をこなしおかわいそう——とのいう論調である。

「四年後の東京五輪を、新天皇のもとで迎えるべきだともお考えになられ、数年以内の実現を望まれている」と宮内庁関係者の話として週刊誌で紹介されている。オリンピックがヒロノミヤのデビューを飾る場として用意され、「天皇を頂点とする日本国」が世界中にお披露目されるというわけだ。新天皇即位に向けた時間はすでに流れだしているだろう。

発言の違憲性については声明を読んでいたことは確かである。八月八日には、天皇自らの完成体が天皇主導で行われようとしていることの「お気持ち」が表明されるという。「天皇条項」「皇室典範」という文字が踊り出してくる。「民主主義」や「立憲主義」が議論される時、すっぽり抜け落ちていた憲法条文。／断絶の関係性を問うということがなされなければならない。反撃の時は始まつた!

まずは8・15反「靖国」行動にぜひ参加を!

(鷗沢桃子)

天皇の生前退位騒動について

無情なる選挙

ロストックの長い夜

天皇の生前退位問題が話題となつてゐる。論点は多いが、ここでは次の問題提起をしておきたい。

そもそも本当に天皇が「生前退位したい」と言つたのか自体よくわからないのだが、仮に天皇がそのように言つたとして、それを公表してよいのだろうか。憲法上、天皇は「国政に関する権能」（要するに政治権力）を一切剥奪され（憲法四条）、憲法七条に列挙された「国事行為」を「内閣の助言と承認」に基づいて実施することだけが許されている。だが、「自らの退位に関する発言」は憲法七条の「一体どに」に該当するのか。仮に国事行為に当たるとしても「内閣の助言と承認」は欠けていたはずだ。そうならば、今回は天皇の直接の発言ではないものの、それを他人の口を通じて発表することは許されないはずだ。

本件については様々な憶測が広まっている。だが天皇の意思を忖度（そんたく）し、自らの行動を正当化する者たちによつて戦前の政治はメチャクチャにされたのだった。天皇の活動が国事行為に限定された理由が「忖度の政治」の阻止であつたことが今思い出されなければならないだろう（もちろん、「自明」のようになつてゐる象徴天皇制その 자체の是非についても議論されるべきである）。

（はじき印）

参院選は不毛だった。野党共闘の結果、わが選挙区では自民・民進の事実上の一騎打ち。自民候補は特定秘密保護法推進に力のあつた改憲派で、民進候補は地元紙の紙上で「改憲自体には反対ではないが、自民党的やり方は問題だ」と発言。やむなく一人区の投票を棄権した。抗議にだけ意味があつた。

そもそも TPP 成立が地域崩壊につながる農業県で民進・自民・TPP 推進の尖兵の一勢力の「一揆」を迫る「共闘」とはいかに？「大義のために他に手がない」と当地の革新勢力は言うが、大義が改憲阻止ならともに繋がつてない。自民党改憲案は阻止すべき、TPP 阻止も切実なら改憲も TPP も絶対ダメと言えばいいのに。「多数派の支持」なる皮算用を用いる限り人々の生存を求める声は選別され、頭越しの大義が浮く。

同じ流れに昨秋の某野党の党首発言を見ゆ。「国民連合政権ができたら日米安保廃棄を当面凍結する」。構造的加害者たるヤマトの私たち、日米安保放棄は沖縄とアジアへの加害をやめる重要な選択肢が天皇の意思を忖度（そんたく）し、自らの行動を正当化する者たちによつて戦前の政治はメチャクチャにされたのだった。天皇の活動が国事行為に限定された理由が「忖度の政治」の阻止であつたことが今思い出されなければならないだろう（もちろん、「自明」のようになつてゐる象徴天皇制その 자체の是非についても議論されるべきである）。

（まお／鳥）

一九九二年夏、統一直後の旧東独の町ロストックで、ネオナチがベトナム難民を襲つた。事件は、ネオナチによる難民襲撃事件のうち最大のもので、統一ドイツの不安定な社会状況を表してゐるようで衝撃だつた。

シリアなど中東からの難民が欧洲に押し寄せ、外国人排斥の動きが強まる（〇一四年に事件は映画化された）。監督はアフカン難民一世で、ドイツ生まれのフルハン・クルバニ。

映画は、事件の起きた九年八月二十四日を中心に若者、親世代、難民三者の目から描く。モノクロで始まり、途中から火炎瓶の炎を炙りだすかのようにカラ一になる。

ロストックの難民住宅をロンドンから若者たち。夜になると、警官隊とぶつかり、難民を襲う。その中の一人は、町の政治家の息子。父親は政治にからめて息子のことは無関心。そして新天地を求めてドイツにやってきたヴェトナム難民の女性。夜になり、若者が難民住宅に集まり、野次馬も何千と集まる。若者が火炎瓶を住宅に投げると野次馬は歓声をあげてはやす。火をつけられた住宅のなかで、恐怖に駆られて逃げ惑うベトナム人。一夜明け、外では子どもたちが後片付けをしてゐる。微笑む女性にペットボトルが投げられる。

ベイトクラームは世代や国境を超えて地球上に広がつてゐる。日本も例外ではない。

（映女）

状況 批評

思想・状況・批評

オバマ広島訪問と伊勢・志摩サミット

関千枝子

(安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京 原告代表)

六月末の日曜日、広島に行く急用ができた。朝の集会で朝一番の列車で行つても間に合わないので、前の晩から泊まろうと宿を探したのだが、満杯だという。広島のホテルは、毎年八月五日は満員状態で大変な騒ぎになるのだが、六月で宿が取れないなど考えられないのでは驚いたが、「オバマ」効果で大賑わいなのだと。エーッと驚いた。宿の方は広島の方が探してくださって何とかなったが、確かに平和資料館に行つても外国人の客が多く、いつもとは少し違うことを確認した。現職のアメリカ大統領のヒロシマ訪問は初めてのことでのオバマ大統領の来広が核兵器に対する関心を呼び起こしているとすれば、それは結構なことではあるのだが、私の胸の内はもやもやしている。

このところ、世界の核を持たない国々は核兵器廃絶に非常に熱心で、核廃絶の条約を作るよう強く求めている。しかし、条約のための協議を始めようという動議も、核を持つ国々によって反対され続けているが、それについて「棄権」という態度を続けているのが日本で、「アメリカの核の傘に守られているから」だそうだ。「唯一の被爆国」などと言っている国が、という核を持たない国々からの批判に、岸田外相が言つたのは「ヒロシマ・ナガサキに来てほしい」ということだった。ヒロシマ、ナガサキに来てもらうのは（誰でも）悪いことではないけれど、など思つていたが、G7外相会議が広島で開かれ、核を持つ国、アメリカ、イギリス、フランスの現職外相

が初めて広島を訪れた。私は、オヤと思った。今年日本がG7の開催国になるということはすっかり忘れていた。なるほどそんな仕掛けか。

安倍内閣の外交（岸田外相）、なかなか「巧み」でしかもいやらしいものがあり、気になっていた。たとえば昨年暮れの「日韓合意」である。日本と韓国の間がこれ以上悪くなるのは困るというアメリカの考えが後ろにあるのは間違いないが、岸田外相は「慰安婦問題」について安倍首相に一言「責任」という言葉を言わせただけで、これ以上国際的な場で韓国に物を言わせないことを約束させた。そしてその代価は、韓国が作る当事者の支援組織に日本が金を出すというもので、その代わり、韓国の民間団体が作った「少女像」の撤去を求めるというものである。民間団体が作ったものを政府が撤去を約束できないと韓国政府は言い、岸田外相も「努力目標」という風な言い方だが、自民党内では、少女像について撤去しなければ、金を出すな、といった過激な言葉も飛び交っている。この「合意」について韓国の当事者団体から、こんなものは謝罪でも解決でもないと厳しい拒否の言葉も出ているが、困ったことにこういう形でことを運ばれると、「当事者の意見を十分に聞かなかつた韓国政府が悪い」ということになつてしまふ。日本の関係団体も、当事者の納得しない解決はおかしいと抗議したが、これではどうしても悪いのは韓国政府で、日本政府はできることをやつた、という形になつてしまい、

どうにも歯切れが悪い。私はせめて、民間団体の作った「少女像」に日本政府が難癖をつけるのはおかしい、撤去などを言うのは筋違いで、それこそ「盗人、猛々しい」ことだと思い、国会の場で質問し、日本政府の姿勢を正すべきではないかと、間接的に国會議員にお願いしたのだが。そんなやり取りも聞こえてこず、当事者の怒りを抱えたまま、韓国では財團の設立が始まるらしい。どうも何ともいやらしい外交で、「すり替え」というか。これと同じことが、核廃絶外交でも起こりそうで嫌な気分になってきた。

第一、サミットの会場が「伊勢・志摩」なのも気に入らない。伊勢・志摩国立公園というのがあり、今、皆、当たり前のように伊勢と志摩を一緒にして言うが、昔、伊勢と志摩は全く違うところだった。伊勢は伊勢神宮の門前町で商業地として栄え伊勢商人と言えば、商売上手で聞こえた存在だった。一方志摩は典型的な農漁村だった。ここが有名になったのは御木本幸吉が真珠の養殖を始めてからである。伊勢と志摩が一緒に言われだしたのは国立公園法ができた戦後のことである。

サミットも警備のしやすい「小さな島」がいいというのは道理かもしれないが、それなら「志摩サミット」、または『賢島』サミットでいいというのが私の考えで「伊勢・志摩」とくつづけていうのは魂胆がある。伊勢神宮を宣伝したいのだろうと思っていた。

安倍首相の思考には「新自由主義、アメリカべつたり」にプラスして、戦前の大日本帝国の復活の思いがたぎっている。つまり強い国日本＝天皇制ファシズム、大日本帝国に帰りたいという思ひだろうと考える。それは近頃皇室報道がじりじり増えてること「明仁夫妻」のみならず、三笠の一家、秋篠の一家の「大活躍」に表れているが、特にひどかったのは伊勢神宮の遷宮のときの騒ぎだった。テレビなど昼のワイドショーなどで、特番まがいの長時間番組もある

り驚いた。それを言つて誰もそのおかしさに気づかない。「遷宮は二〇年に一度やるのよ。二〇年前にも遷宮をやつてているのだけど、二〇年前、あなたそんな番組やニュースに気がついた?」というと、皆が驚いて「あれ?」という。気が付かないうちに世の中が変わっている。そして、一神社のことが天下の大事件で、これが日本の伝統文化だと、皆が思つてしまつていて。たつた二〇年でこの差。何がこの間起こつたのか。

とにかく、「伊勢・志摩サミット」は始まつた。始まつたころ、沖縄で元海兵隊員による「女性の殺人事件」がおこつた。安倍、オバマ対談があつたが、オバマは「遺憾」の意は述べたが地位協定の見直しなど一顧も介さないようであつた。サミットは始まつたが、安倍のもくろんだリーマンショック以来の経済の悪化という見解はヨーロッパの国々から軽く一蹴されてしまつた。

テレビはサミットで大騒ぎで、アナウンサーたちが「イセシマ」を連発するのが気になつた、中には「イセジマ」という人もいた。この前安倍首相のテレビ発言を見ていたら、安倍も「イセジマ」と言つていた。冗談じゃないよ。伊勢と志摩は違うんだ、一緒にして!と思つていたが、案の定、G7の首脳たちを伊勢神宮に連れて行つた。

日本人の人もイセシマで、同じところの神社に行くのだからと妙にも思わない。本当は伊勢と志摩、かなりはなれているのだが。そして、日本の伝統と文化を見てもらつたと言つてはいるのだが、あれはどう見ても神事。神道の儀式で、政教分離違反だと思うが。

伊勢神宮は普通の価値の神社ではない。天皇家の宗神で、戦前の国家神道の最上級の神である。安倍はこの神社のことをG7首脳と日本国民に、これこそ日本の文化と伝統と宣伝し、政教分離（憲法二〇条）を実質的に破棄したかっただのだろうと思う。

そのあと、オバマ大統領の広島入りである。こともあろうにオバ

マは岩国基地から広島入りした。しかし、オバマは、ヒロシマでは大いに気を使った。自分で折った折り鶴を資料館に捧げ、被爆者たちを抱きしめた。内容はプラハ発言よりも後退していたが、とにかく今この段階で彼の言えること、核廃絶への「夢」を語った。「夢」でなく被爆者は、今すぐの「核兵器の廃絶」への道を願っているのだが。多くのヒバクシャが、オバマ大統領が見せた「優しさ」に感動してしまったことは疑いない。

沖縄に見せた「つれなさ」も皆、すっかり忘れてしまった。沖縄と広島が分断され、沖縄はまた切り捨てられたように私は思った。

伊勢神宮訪問のことは、メディアも問題にもしなかった。日本人の多くが、問題があることにも気づかなかつた。

だが……。とにかくオバマ＝現職の大統領が来たといふことは、「いけない」とは言えない。「いいこと」である。そして一番得意顔だったのは、「オバマを連れてきた」安倍首相と岸田外相だった。お手柄だ！ みな、国連で核兵器廃絶の交渉を始めることにすら棄権してきた日本の責任など、すっかり忘れてしまつた。オバマは、自分の国も含めて核を持つ国に勇気を持てと言つた。核を持たず、「唯一の被爆国」でありながら、アメリカの傘の下で、おずおずしている日本にも「勇気を持て」と言つてほしかつたところだが。

そして安倍は、日米同盟のきずなで戦争を防ぐと大いに謳い上げた。「積極的平和論」だろう。日米の「核抑制」の壁だが。これにも安倍もいいことを言うと、有頂天になつた人がいた。

安倍首相とオバマ大統領が、原爆ドームをバックに一緒に写した写真が、参院選の最中に大いに使われたようだ。オバマ広島訪問は、結局安倍自民党の良き宣伝材料に使われたことは間違いない。

参議院選挙の、野党共闘を評価する人もいる。しかし、自民党が参院でも単独過半数を取り、改憲派が三分の二をこえたことはまち

がいない。

秋の国会では、憲法審査会が大車輪で活躍するだろう。一気にやらず、やりやすいところから変えていくんだろうという予想もある。そうかもしれない。「やりやすい」ところで、憲法二〇条がまず見直されるのではないかと、私は危惧している。二〇条について、これを単に信教の自由の問題と受け止め、政教分離の意味が分かつていない人が多い。ソフトと言っていた自民党の前の改憲草案でも二〇条に、伝統、文化なら構わないと、少し緩やかにする案が入っていた。この程度ならだれも文句は言わない。もう国民は、日本古来の「よき伝統」嚴かな神社文化に慣れっこである。気が付かないうちに二〇条が改変するのではないかと私は恐れている。政教分離が「緩やか」なれば、じりじりと戦前の国家神道の影が入りこんで来る。九条も骨抜きにしてしまつたのだから、政教分離の骨抜きなど訳はない。

そして安倍氏はこれを一日も早く、二〇条改悪を望んでいるに違いない。せつからく自衛隊を外に出して、同盟国のために自衛隊員を殺しても、彼らを褒めたたえ祀つてあげるところがなくては、どうにもならない。靖国神社の復権を急がなくてはと思つてゐるだろうから。



ピープルズ・プラン研究所パンフレット特別号 vol.1
『非暴力直接行動への宿題』――反戦交友録

有馬保彦（市民の意見30の会・東京）

昨年秋、天野恵一さんから吉川勇一さんが遺した文

民運動の歴史の一端も知ることができます。

集を、一周忌を前に出そうと声をかけられ、吉川勇一さんによるインタビューした経験のある市民運動の研究者である松井隆志さんを含め三人で編集にとりかかりました。

天野さんが「刊行にあたつて」で書かれていますが、吉川さんの各文章は市民運動の中で吉川さんが運動の問題点をその時々、論争を呼び起こし、運動の原則を運動内で確かめ合うという作業を行なってきたことが

したがって大部分のものは市民の意見30の会・東京の機関誌から、また、インタビューア記事は、手にはいりづらくなつた『季刊 運動経験』を収めることになりました。また第二章の初めに読むことができる「80年代安保論争の焦点」は廃刊の『新地平』に掲載されたもの。そして、吉川さんが亡くなられる数日前に書かれた「10・8山崎博昭プロジェクト」賛同の山本義隆さんへの手紙（絶筆と思われる）を収めることができました。

見俊輔批判のコメントも掲載。これは、気持ちいいくらい鶴見俊輔さんの相対主義への批判)。それらは、市民運動の中で、論争することがそれぞれの運動・行動を共に戦うために必要な作業であつたからだと思います。日高六郎さんはそのような行為を「行動を画一化すること」をさけ、「運動を『諸行動の統一』にするために必要だといいます(日高六郎「私の平和論」岩波新書一九九五年)。

駆のマイナスやプラスと共に検証し共有していくことを拒絶しているかもしれません。こうした運動・思想のあり方を吉川さんは、一番嫌っていたと思います。このパンフレットの編集を通して、吉川さんが執拗に仕掛けた議論の意味とそのあり方の重要性を私は改めて認識しました。

購入申し込みは下記までお願ひいたします
領価 一〇〇〇円（送料は、無料）

吉川さんが晩年、気持ちを入れて「市民の意見」（市民の意見30の会・東京）に連載した「反戦交友録」は、吉川さんの、市民運動に関わった人達（思想の違い、運動体の違い）との関係の持ち方が、取り上げられて、いる19名を通してみることができ、またこれまでの市

への宿題」です。二〇年前のものを『古いもの』と片付けることはできない。最近出された高草木光一さんが編んだ『べ平連と市民運動の現在』を読んだ市民の意見30の会・東京の会員からはその本の感想が機関誌『市民の意見』（一五七号、八月）に寄せられました。

発行：ピープルズ・プラン研究所
〒112-0014 東京都文京区関口一四四一「信生堂ビル」
TEL 03-6424-5748 FAX 03-6424-5749
Email: ppsg@jca.apc.org
HP: <http://www.peoples-plan.org/jp/>

米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する実行委員会 9・4各エリアにおける監視・抗議行動、報告集会へ！

藤田五郎（米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する荒川・墨田・山谷＆足立実行委員会）

今年の東京都総合防災訓練は九月四日、葛飾区水元公園、墨田区スカイツリーを中心に行われる予定だ。米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する実行委員会二〇一六年は、七月三〇日に前段集会「熊本地震で起きたこと……」（すみだユートリア）を行った。九月四日当日は朝から各エリアでの監視行動、抗議情宣、報告集会（午後二時～青戸地区センターホール）が予定されている。

そもそも東京都の防災訓練が問題とされてきたのは二〇〇〇年に当時の都知事・石原慎太郎が、練馬の自衛隊式典において「（震災時には）治安出動もあり得る」「三人国人が暴動を起こすかもしれない」という差別暴言を吐き、その年の東京都総合防災訓練を「ピッグ・レスキュー首都を守れ！」と、陸・海・空自衛隊を大々的に展開させたことだ。以降、例年の防災訓練反対闘争は、とりわけ東部圏においては米軍や自衛隊関与への抗議にとどまらず、関東大震災における朝鮮人虐殺の事実を捉え返し、有事体制下の排外主義を問うものとして継続してきた。

二〇一一年以降は、被災地における自衛隊の活躍が盛んにPRされ、炊き出しやトリアージの手伝いとして動員された地域の中高生らが自衛隊と現場で一緒に活動したり、豪華な自衛隊パンフが配られるなど、防災訓練の場が自衛隊にとっての絶好のリクルートPRの場となってきた。さらにはここ数年、都立高校の自衛隊宿泊訓練

が公然と実施されるなど、自衛隊と教育現場（大学も含む）との結びつきが密接になつて現状がある。とりわけ安保法制成立を経て、九条改憲による国軍化が射程に入つた今、経済的徴兵制の問題も含めて、防災訓練における自衛隊の目標は、単なる防災支援にとどまるものではない。

7・30集会では、熊本の地で部落解放運動を当該として担い、先の熊本地震では町内の自治会長として救援や避難所の運営にあたり尽力された田中信幸さんが講演。田中さんは、いくつもの困難な事態に直面した体験をふまえ、被災直後からの教訓を語った。部落差別に抗する闘いを通じて、ともに助け合う精神が育まれ、今回の救援・避難所で生かされたことだ。たとえば行政が仕切るだけの避難所に比べて、自治組織が動いて行政に対しても声を出せるところは、食から居住環境、メンタルまであらゆる領域で改善することができた。自衛隊は現地ではそれほど役立ってはいない、あくまで部分であること。ましてや危険なだけのオスプレイの投入など百害あって一利なしといった根拠も述べられた。そして見逃してはならないのは、地震翌日からネット上で流された「朝鮮人が井戸に毒を入れた」といった差別煽動のデマ情報である。幸いにも現地では誰も相手にしなかつたが、今後起

ることで奨学金返済が免除されるなどの特典）の問題に絡んで、被災地を訪れた自衛隊の行動が問題視され、その結果として何も起きなくてよかつたではなくて、そのことが平然と黙認される風潮であると。提起された中身は、防災訓練反対という個別課題で完結する話ではない。広く共有したいところだ。

統いて、「戦争に協力しない！させない！練馬アクション」の池田五律さんが、「ここまできている戦争体制」と題して安保法制整備後の自衛隊の変容を報告し、二〇月二三日の自衛隊朝霞観閲式反対行動への参加を訴えた。「高校生をリケルートする自衛隊・自衛隊の手法を取り入れる教育行政」編集委員会の渥美昌純さんは、防災訓練と児童・生徒の関わり方の問題、特に横田の中学で米軍が「ミニ・ブートキャンプ」という軍事訓練を指導したことでもない実態を報告した。最近では、自衛隊の富士火力大演習の見学希望数も倍増だという。情報誌の『びあ』が『自衛隊びあ』を出したり、自衛隊の浸透は凄まじい勢いだ。このことはやがて、経済的徴兵制（軍に入隊することで奨学金返済が免除されるなどの特典）の問題にもつながる。

都知事に小池百合子、防衛相に稻田朋美が決まった。いずれも日本会議と結びついた極右のレイシストである。そして都知事選では「日本で生活保護をもらわなければ死んでしまう」という在日がいるならば、遠慮なく死になさい」と東京中にヘイトスピーチをまきちらした在特会・桜井誠に一二万四千人余が投票した。相模原事件以降のネット右翼の差別暴言もエスカレートしている。

こうした状況のなかで進行する防災に名を借りた有事体制づくりに異議あり！の声を挙げ、反撃の闘いをつくりだそう。

みたび

太田四國の夢は夜ひらく 75

「beautiful Japan !!!!」に、何の因果関係を見るのか

現代世界において、とりわけ、二一世紀に入つて以降、世界各地で頻発する「テロリズム」の行動について、私は、それが「反テロ戦争」と因果の関係にあると一貫して主張してきた。二〇〇一年「9・11」の事件が、いかに悲劇的なものであつたとしても、攻撃されたのが超大国の経済と軍事を象徴する建造物であったことを思えば、それが強欲な資本主義に対する底知れぬ憎悪を示す行動であつたことは、誰の目にも明らかであつた。ならば、超大国には、この憎悪が映し出した現代世界の「病」の依つて来る由縁をこそ見つけ出し、それを除去する方策を模索することこそが求められた。

それは、自らが抱える「病根」を抉り出す手術になるはずだった。だが、周知のように、ブッシュ政権下の米国は、その内省の道を選ぶことなく、「反テロ戦争」という報復の道を選んだ。

『カンダハール』などの作品を創ったイランの優れた映画監督、モフセン・マフマルバフの優れたメタファーを借りるなら、貧しさに喘ぐ人びとが住まう土地に超大国が落としたのは、住民が切実に求めていいるパンや本ではなく、忌み嫌われている爆弾だったのである。それから一五年、アフガニスタンの乾き切った大地の一部は、戦乱の中につぶされ、爆弾そのとなつた土地では数知れぬ人びとが殺され、爆弾その

他の近代兵器によつて大地は荒廃し、住まう条件を奪われた多数の人びとが難民となつて異邦の地を流浪することを余儀なくされている。

「反テロ戦争」はアフガニスタンに留まることなく、〈世界性〉を帯びた。「反テロ戦争」が作り出した諸状況に憤激し、これへの絶望的な反抗を、憎悪に満ちた暴力で発動する「テロリズム」もまた同様に〈世界性〉を帯びて、今日に至つてゐる。両者の因果の関係を見据えなければ、その双方を止揚する道は見つからないのだ。

因果の関係といえば、ここで、去る七月二六日早晩、相模原で起つた障害者施設襲撃・一九人刺殺事件を取り上げたい。すべての報道に接しているわけではないが（特に、テレビニュースは、その低劣さに辟易しているので、ほとんど見ない）、この事件をこの間の日本の社会・思想状況と重ね合わせて論じる視点が少ないようと思える。容疑者が事件に先立つ五月前に衆院議長（大島理森）に宛てた「障害者を殺害する」とする書簡では、「障害者総勢四七〇人を抹殺する」計画が述べられているが、中段の「革命を行い、全人類のために必要不可欠であるつらい決断」に対する衆院議長の理解を求める文面の次には、「ぜひ、安倍晋三様のお耳に伝えていただければと思います」とある。末尾は、「安倍晋三様にご相談いただけることを切に願っております」という文章で締め括られている（〔要

旨〕しか掲載しなかつた新聞では、安倍に言及した箇所は省かれている。省くべき箇所ではないだろう。「異常」にも思える容疑者の心情は、この箇所において、政治の最高責任者という公人への訴えを通して社会性を獲得していると読むべきなのだから。ここでの引用は、七月二七日付東京新聞朝刊による）。



民族主義的なスローガンにも似た響きがある。

容疑者の背後にちらつく社会的な影は、ひとり安倍晋三だけではない。石原、猪瀬、舛添、小池を選び続いている都民も、橋下を選んでいた府民・市民も、信じ難いことに実在していることを考えれば、歴史修正主義の考え方および雰囲気が、ここまで社会を覆い尽してしまつたことを認めざるを得ない。恐るべき相模原事件の依つて来る由縁を、容疑者の個人史と資質に還元せずに、この社会を覆う政治思想、すなわち、経済的・身体的・歴史的な強者のためのスローガンが大手を振つて罷り通る現実との因果関係で捉えなければならない。

マスコミの天皇制
02

天皇代替り（Xデー）の政治が始まつた！

——完成された〈違憲天皇制〉のヘゲモニーの下に

天野恵一



八月六日、広島に原爆（無差別大量殺傷兵器）が投下された日（七一年前）。宮内庁が、天皇が八日午後三時に自分の「お気持ち」なるものを伝えるビデオメッセージをマスメディアに発信するということが、新聞各紙に大きく報道されている。

「政府は内閣官房に皇室典範改正準備室を置き、陛下の公務負担軽減策を検討している。当日は、陛下の気持ち表明後、安倍晋三首相がコメントを発表する方向で検討している。政府関係者は『国民の代表として発信することになる』としている。／陛下は『象徴としての地位と活動は一体のもの』という信念を持っており、加齢に伴つて活動ができなくなつた場合には、退位もやむを得ないと考えを周囲につたえていとされる」（傍点引用者）

「国体護持（天皇制の延命）に、天皇をトップとする侵略戦争指導者たちが固執したため、アメリカが原爆を完成し使用する時間を与えてしまつた。その結果、広島の（そして長崎の、さらには大空襲のそして沖縄戦の）大惨劇が現実のものとなつてしまつた。数えきれない死傷者を踏み台にして延命した天皇制。象徴へのモデルエンジンをしたその、延命のための新しい方法を、ヒロヒト天皇から代替りした象徴天皇アキヒト（とその一族）が、メッセージを発して提案するという。それが「八月六日」（原爆

の日）に大々的に報じられる。なんと皮肉な話である。

天皇の「生前退位の意向」なるものがマスコミに公表されたのは七月十三日である（NHKのニュース）。新聞各紙は翌十四日、一面をその問題で埋め尽くし、社会面ふくめ、大々的に論じてみせた。この画一的に「陛下の意向」を全面的にクローズアップしてみせる翼賛報道を目にし、私は、これは「天皇代替り（Xデー）政治」のスタートのシグナルであると直感した。この認識を、まず広く共有することが、運動的にはなによりも大切であり、ヒロヒト天下は「象徴としての地位と活動は一体のもの」という信念を持っており、加齢に伴つて活動ができなくなつた場合には、退位もやむを得ないとの考え方を周囲につたえていとされる」（傍点引用者）

「国体護持（天皇制の延命）に、天皇をトップとする侵略戦争指導者たちが固執したため、アメリカが原爆を完成し使用する時間を与えてしまつた。その結果、広島の（そして長崎の、さらには大空襲のそして沖縄戦の）大惨劇が現実のものとなつてしまつた。数えきれない死傷者を踏み台にして延命した天皇制。象徴へのモデルエンジンをしたその、延命のための新しい方法を、ヒロヒト天皇から代替りした象徴天皇アキヒト（とその一族）が、メッセージを発して提案するという。それが「八月六日」（原爆

のXデープロセスとは、まったく違つたプロセスが、病床にいるわけではなく、生きている天皇自身によつて提案されているのだ。それは、重体（自肃騒ぎ）の状況下で「過剰な自肃は陛下のお心にそわない」と「自肃の自肃」を呼びかけたアキヒトらしい提案ではないか。

もう一点、このスタートの時点で注目しておくべき問題がある。

宮内庁の山本信一郎次長の「報道されたような事実は一切ない」という十三日夜のコメントである。そんな「お気持ち」は天皇にはない、と明言してみ

せておられるのだから、そこにはあるのは、非政治のタテマエの下で天皇政治を実現する努力である。

ここには、戦後憲法（象徴天皇規定）の自己矛盾がハッキリと示されている。考えてみれば、代替りして天皇の「公務」を熱心に拡大し続けてきた（アキヒト・ミチコ天皇制）は、「国事行為」以外はしてはいけないと規定されている憲法を無視して、事実上、「公務」という曖昧な概念にくくつて「国事行為」を拡大し続けてきた〈違憲天皇制〉の完成形態だつたのだ。

明文改憲に向かう安倍政権と、解釈改憲を積み上げてきたアキヒト違憲天皇の対立と共存で展開され、天皇重体（自肃）の強制の横並び的拡大）、そして死、さらに新天皇即位儀礼という、ヒロヒト天皇の反天皇制運動は、スタートしたのである。

【反天連からのよびかけ】01

天皇制が主導する「X デー状況」への反撃を開始しよう！

——天皇も皇族もやめろ、そして天皇制は廃止せよ！

2016年7月28日
反天皇制運動連絡会

●これは「自肅なき X デー」の始まりである

7月13日、明仁天皇の「X デー」状況がはじまった。しかもこれまで全く予想されなかつたかたちで。

天皇という地位についている人間の生物学的な死としての「X デー」へのカウントダウンが始まつたわけではない。しかし、天皇の「代替わり」にともなう、新たな天皇制像の演出としての「X デー状況」は、すでに開始されたと見るべきだ。

反天連は昭和天皇「X デー」との大衆的な鬭いに向けて1984年に結成された。昭和天皇の「X デー」においては、病状報道から天皇の死にいたる時期の「自肅」と「弔意強制」が、列島全体を巻き込んだ社会現象となった。それは経済状況にも影響し、何よりもその「息苦しさ」への反発が、天皇制に対する批判的な感覚を広げた。このことはおそらく、天皇制を演出する側にとっても総括すべき点であったはずである。今回の、いわば「自肅なき X デー」状況の開始は、われわれにとっても、前回とは異なる反天皇制運動の展開を要求している。そのことを見すえながら、私たちは多くの人びとの共同の作業として、開始された「X デー状況」に反撃する鬭いを、さまざまなかたちで準備し開始することを呼びかける。

●天皇が事態を主導している

われわれは、今回のそれがまず、天皇自身による「生前退位」の意向表明として始まつたことに注目しなくてはならない。これはたんに年老いた明仁天皇が、現役を退きたいと希望していると

いった話ではない。NHK によってそれが報じられてすぐに、宮内庁幹部や政府は「報じられた事実はない」「承知していない」と打ち消して見せたが、各メディアは事実としてそれを後追いで報じ、宮内庁もまた NHK への抗議などはしていない。さらに、首相官邸では、限られた人間しか知らず、何を検討しているかについてさえ極秘のチームが、皇室典範改正に関する検討をすでに進めていたとされる。それをも飛び越えて、天皇の「意向」が唐突に明らかになったのは、明仁天皇自身そして徳仁や文仁らの強い意向がそこに働いていたからであると判断される。

今回の件は、明仁天皇自身が、「次代」の新しい天皇制を演出する、その主導的な担い手の一人として立つという明確な意思を表明したということを意味する。摂政をおくのではなく、皇室典範の改正が必要な「生前退位」を、明確に希望したこと、それは象徴天皇制を、明仁天皇みずからが主人公となって、積極的に変革し再構築するという宣言なのである。

●「国民の天皇」の政治的行為

「生前退位意向表明」は、昭和の天皇制とは段階を画した「国民の天皇」としての、明仁天皇制をしめくくるものである。

その即位以来、マスコミ等を通じて演出されてきた明仁天皇制の姿とは、アジアへの外交や沖縄訪問による戦争責任の和解に力を尽くし、国内外の戦跡で死者への祈りを捧げ、さまざまな自然災害の被災者を慰問するなどの「公務」を精力的に行なう、「常に国民とともに」ある明仁と美智子といったイメージであった。しかし、これら一見

すると「非政治的」で平和的な、問題ともならぬよう見える天皇の行為は、現実にはすぐれて政治的な役割を果し続けている。

たとえば、アジア訪問などにおける天皇の発言は、実質的に天皇制国家の責任も日本軍の責任もなにひとつとらず、ただ口先でだけ「謝罪」のことばを發して終わったことにしようとする日本国家と基本的に同じものである。それがたんなる「口先」ととらえられないのは、「国民統合の象徴」とされる地位に立つ者のことばであり、マスメディアが絶対敬語で無条件に賛美することばであり、ある人たちにとっては侵略戦争の責任者であった昭和天皇の息子のことばであるからだ。國家の儀礼を受け持つのが天皇の役割だが、それは天皇であるからこそ、他の国家機関ではなしえない何ものかを有するものとして演出される。しかし、繰り返すが天皇は国家の機関である。だから天皇のことばを賛美することは、国家のことばを無条件で賛美することと同義である。天皇はそのようななかたちで政治的な役割を果しているのだ。

●天皇の「公務」の拡大は違憲だ

年齢のせいで「公務」が十分果せなくなったという思いが、今回の「生前退位」の意向表明の背景にある、とマスメディアは報じている。明仁と美智子によってさまざまにおこなわれてきた天皇の「公務」を「誠実」に果していくこと。「生前退位」の意味することは、自らが体現してきたそういう象徴天皇制のあり方を、その権威も利用しつつ、明仁天皇から徳仁天皇へと意識的につないでいくことに違いない。それは、息子の妻の病いも含め「不安」の中にある次代の天皇制を、ソフトランディングさせていくという意図に貫かれている。

だが、憲法で規定された「国事行為」以外の「公務」なるものは、そもそも違憲の行為である。かつて「統治権の総覧者」であった主権者天皇を、「国民主権」のもとでの象徴天皇に衣替えするにあたって、天皇の役割を法的に限定したのが憲法の天皇条項である。認められた「国事行為」以外に「公的行為」なる区分を立て、天皇の「公務」としてひとくくりにすることは、いわば天皇条項の「解

釈改憲」にほかならない。そうやって勝手に「仕事」を増やしておいて、それを十分に行なえないから「退位」して代替わりが必要だなどと、「政治に関与しない」はずの天皇が言い出すことは、二重に違憲の、ふざけた言い草なのだ。個人的な事情で国家の制度の変更を迫る。ここにあるのは、身体を有する特定家系の個人を国家の「象徴」とする制度自体の矛盾である。

今後、天皇の意思を「忖度」して皇室典範改正作業が本格化されていくであろう。すでに、退位後は「上皇」になるのか、今回限りの特例法で、などといった議論も始まっている。皇室制度を安泰にするための「女性宮家」の検討も再浮上するだろう。右派の抵抗も予想されるが、皇室典範の不合理な部分を、合理化しなければならないといった議論が、「陛下の意思」を背景に、「国民的」になされる場がつくりだされようとしている。

問題なのは、こうした議論の中で、拡大された天皇の「公務」自体の違憲性を、正面から問う言説がほとんど見られることである。逆にそれを前提とし、それらをより積極的に行なうことが天皇の役割であると言うのである。

私たち反天連の立場からすれば、体制としての戦後民主主義のなかに埋め込まれた象徴天皇制は、民衆の自己決定としての民主主義とは矛盾するシステムである。生まれによって、特別な身分が保障されるような制度はおかしい。私たちは天皇によって「象徴」され統合された「国民」であることを拒否する。膨大な経費と人員を使って、各地に移動するたびに、人権侵害をひきおこし、批判的な少数言論を抑圧する制度は迷惑である。そうであるからこそ、新たな天皇制の再編強化を意味する「生前退位意向表明」に私たちは注目せざるを得ないし、その違憲性を批判し、そこで具体的に生み出される天皇制の政治と言説に批判的に介入していく。

天皇も皇族であることもやめよ。徳仁も即位するな。皇族という存在はいらない。そして天皇制自体は廃止されなければならない。

野次風日誌

7月1日～7月31日

〔7月1日〕

◆宮内序が、翌年1月の歌会始
の義（題は「野」）の選者の人を発表。

安保政策◆安倍晋三首相(自民党総裁)が、共産党が自衛隊は憲法違反で、将来の解散を主張していると重ねて批判。

（7月3日）
施行される。
策を定めた全国初の大坂市条例が、全面

本選手団の結団式に出席。雅子は、シドニーや五輪を前にした2000年の結団式以来、16年ぶりの出席となつたと報道。徳仁があいさつで「皆さんのご活躍は、2020年に東京で2度目の開催となるオリンピックの成功につながるものと思ひます」。

明仁・美智子◆東京・上野の東京国立博物館を訪れ、日韓国交正常化から前年で50周年を迎えたことを記念して開催されている特別展「ほほえみの御仏——二つの半跏思惟像」を鑑賞。

明仁・美智子◆東京・上野の東京国立博物館を訪れ、日韓国交正常化から前年で50周年を迎えたことを記念して開催されている特別展「ほほえみの御仏—二つの半跏思惟像—」を鑑賞。

てほしいという意向を伝達し、負傷した1人の家族にも、「お見舞い」を伝えてほ

◆2020年東京五輪・パラリンピック開催に向け、研修室で人と面会。

總裁を務

道。久子は連盟設立時から名譽

に先立ち、徳仁が東京都新宿区の東京都赤十字血液センターを訪問。地元の小学

れも、国際ユニヴァーサル
会の总裁として編集二報道。

デザイン協議

研修室で、国立余丁町小6年の児童約30人と面会。
【君が代】◆2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が、リオデジャネイロ五輪日本選手団壮行会（3日）のあいさつで「どうしてみんなそろって国歌を歌わないんでしょうか」などと述べた理由を、主催の日本オリンピック委員会（JOC）が「国歌齊唱」でなく「独唱」の形式で実施したことに疑問を感じたからと説明。

道連盟の設立10周年記念行事などに出席すると報道。久子は連盟設立時から名譽総裁を務めている。

に応じて変えていくことには賛成だ」。皇太子一家◆宮内庁が、皇太子一家が21日に奈良県橿原市を訪問し、初代天皇とされている神武天皇の陵を参拝すると発表。

【7月14日】

明仁・美智子◆静養先の神奈川県葉山町の葉山御用邸を離れ、帰京。

明仁◆明仁が、新たな「公務」の負担軽減策が検討されていた春、身近な関係者

に「天皇である以上は公務を全うする。そうでなければ憲法で定められた象徴としてふさわしくない」との趣旨の考え方を示していたことが、政府関係者への取材で分かったと報道。明仁は大幅な軽減策を拒み、十分な活動ができなくなれば生前退位も辞さない意向を漏らしたという。安倍晋三首相「さまざまなお報道は承知しているが、事柄の性格上、コメントは差し控えたい」。羽田空港で記者団の質問に答え。／米紙ニューヨーク・タイムズ（電子版）が、明仁が生前退位の意向を示していることについて、生前に退位すれば「光格天皇以来、ほぼ2世紀ぶりの出来事」などと解説しながら報じる。徳仁について「たびたび（日本の）平和主義の憲法を称賛してきた」と述べ、公式には天皇に政治的な権限がないとしながらも、安倍晋三首相が目指す憲法改正とは対照的な考え方を示すかもしれない」と主張したと報道。

【皇室典範】◆明仁が徳仁に皇位を譲る生前退位の意向を周囲に示したことから、宮内庁の風岡典之長官ら幹部数人が春以

降、水面下で皇室典範「改正」の是非について本格的に検討していたことが、政府関係者への取材で分かる。議論の進捗状況は官邸と共有し、明仁、美智子に報告されていたといい、宮内庁関係者によると、同庁は近く、明仁に自ら気持ちを公表してもらう方向で検討していると報道。風岡長官が記者会見で、皇室を取り巻く環境の諸課題を話し合うため日常的に幹部が集まることがあると認めたが、生前退位など具体的な制度を念頭にやつたことはない」と述べる。明仁が生前退位の意向を漏らしたことについて、「そういう事実はない」と否定した一方で、82歳となつた明仁が「いろんなお考えを持たれるのは自然なこと」との見解を述べる。明仁が自ら記者会見などに臨んで「お気持ち」を表明するとの報道は「具体的な予定はない」と打ち消し「憲法上の立場からも、国の制度に関係する答え。／菅義偉・官房長官が記者会見で「私の立場で陛下のお気持ちを申し上げるべきではない」。政府内で生前退位への対応を検討している事実があるのかとの質問に答えずに「皇族の減少にどう対応していくか、皇室典範改正準備室を中心に検討している」と説明したと報道。生前退位に絡み、皇室典範「改正」を検討するかどうかに關して「考えていない」。／民進党の岡田克也代表が記者会見で、明仁が生前退位する際に必要とされる皇室典範の「改正」に前向きな考えを表明。「（生前退位のご意向であるなら、

真摯に受け止めでしっかりと対応を考えないといけない」。女性皇族が皇族以外の男性と結婚した場合に皇籍を離脱する皇室典範の規定を巡り「皇族の数が一挙に減少するのではないか」と見直しの検討を求め、女性・女系天皇を容認するかどうかは「まだ国民に多様な意見がある」として論点化に否定的な見解を示したと報道。

【7月15日】

明仁◆政府が、明仁が生前退位の意向を示しているとされることについて、早ければ翌年の通常国会で皇室典範「改正」を含めた法整備を行う方向で調整に入つたと報道。12月23日の天皇誕生日をめどに骨子案をまとめたいと考え、政府内に杉田和博・官房副長官をトップとする極秘の担当チームを6月に設置し、検討を示しているとされることについて、早ければ翌年の通常国会で「コメントは控えたい」。政府が「皇室典範改正準備室」で進める皇族の減少に対応するための検討に絡む有識者会議の設置について「現時点では考えられない」と報道。

【皇室典範改正】◆菅義偉・官房長官が記者会見で、明仁が示しているとされる生前退位の意向を踏まえた有識者会議の設置について「コメントは控えたい」。政府

始めており、有識者会議も発足させ、意見を聞く方針だと、複数の政府関係者が記者会見で「私の立場で陛下のお気持ちを申し上げるべきではない」。政府内で生前退位への対応を検討している事実があるのかとの質問に答えずに「皇族の減少にどう対応していくか、皇室典範改正準備室を中心に検討している」と説明したと報道。生前退位に絡み、皇室典範「改正」を検討するかどうかに關して「考えていない」。

【改憲】◆菅義偉・官房長官がBS朝日番組の収録で、憲法「改正」論議の項目を巡り、大規模災害などに備える「緊急事態条項」について「俎上に載せるに値する」。

【国立追悼施設】◆日本遺族会会長を務めた古賀誠・元自民党幹事長が、共同通信社

の議論に着手したという。／明仁が、徳仁に皇位を譲る生前退位の意向を示して

いるとされることについて、宮内庁が近づくても日本の平和は論じられない。英

靈の顯彰にもならない」。

【A級戦犯合祀】◆日本遺族会会長を務めた古賀誠・元自民党幹事長が、靖国神社に合祀されているA級戦犯の祭神名票（戦没者調査票）を「宮司預かり」の状態に

戻すべきとの考えを示す。府関係者への取材で分かつたと報道。政局関係者によると、表現には「退位」という言葉を使わないなど、天皇の政治関与を禁じた憲法に抵触しないよう、宮内

府

【7月16日】

明仁◆明仁が12月の誕生日記者会見で「年齢を重ねる中で、今後どのように象徴としての立場を担っていくのがふさわしいか、思案している」という趣旨の気持ちを述べる計画を宮内庁が進めていたことが、政府関係者への取材で分かる。詳しい内容の検討が始まつたばかりの13日に、政府が、政府関係者への取材で分かる。詳しが、宮内庁が前倒しで機会を設け、早期に表明する方向で検討を開始したが、明仁が臨時に気持ちを表明することはあまり例がないため、現在では再び誕生日会見まで慎重に議論する案も含め、日程や内容の調整を続けていると報道。政府は12月をめどに骨子案をまとめ、早ければ翌年の通常国会で皇室典範「改正」を含めた対応を行う方向で調整しているといふ。

華子◆常陸宮の妻華子が、両側変形性股関節症の治療のため、東京都世田谷区の日本厚生会玉川病院で人工関節置換手術を受ける。

【7月18日】

明仁、美智子◆パラオのレメンゲサウ大統領を皇居・御所に招き、昼食を共にして懇談。

【7月20日】

美智子◆東京・上野にある国立国会図書館国際子ども図書館を訪れ、現代翻訳児童文学の半世紀を紹介する展示会「現実へのまなざし、夢へのつなざ」を鑑賞。

【7月21日】

皇太子一家◆東海道新幹線と近鉄特急を乗り継いで奈良県橿原市を訪れ、初代天

皇とされる神武天皇の陵を参拝。京都市に移り、上京区の京都大宮御所で1泊。

秋篠宮◆静岡県御殿場市で開かれた第50回全日本高校馬術競技大会の開会式に出席し、あいさつ。4月に地震被害を受けた熊本県から参加した4校に対し「余震が続く中、十分な練習ができない状況で、あつたと推察いたしますが、それにもかかわらず出場を果たされたことを誠に喜ばしく思います」。開幕を控えるリオデジヤネイロ五輪・パラリンピックに触れる方々が出てきていただくことを願っています」。競技を観戦。

【7月25日】

明仁、美智子◆静養のため、東北新幹線で栃木県那須町の那須御用邸へ出掛ける。

【7月26日】

明仁、美智子◆栃木県那須町にある那須御用邸へ入る。

天皇制◆菅義偉・官房長官がBS日テレ番組で、皇族の減少への対応策について「できる限り早く方向性を見いだすことが必要だ」。「1年ぐらいい前から、勉強会のあります」。競技を観戦。

【7月27日】

明仁、美智子◆20年東京五輪・パラリンピックに向けた「五輪・パラリンピック教育」のあり方を検討してきたスポーツ庁の有識者会議が、国民にスポーツの価値や意義を浸透させるため、全国の教育委員会が中心となって取り組みを進め、国が財政面を含めて支援すべきだとする最終報告をまとめる。

【7月28日】

明仁、美智子◆栃木県那須町の那須御用邸から、東北新幹線で帰京。

【7月29日】

明仁、美智子◆栃木県那須塩原市で酪農家の農場を訪れる。

【7月30日】

明仁、美智子◆東京・六本木の国立新美術館を訪れ、開催中の展覧会「オルセー美術館・オランジュリーユ美術館所蔵ルノワール展」をそろつて鑑賞。

【7月31日】

明仁、美智子◆リオデジヤネイロ・パラ

【7月31日】

明仁、美智子◆栃木県那須塩原市で酪農家の農場を訪れる。

【7月31日】

明仁、美智子◆自民党の山東昭子・元参院前議員監視◆自民党の山東昭子・元参院副議長が、相模原の障害者施設殺傷事件に関し、犯罪予告者や性犯罪の前歴者に対する法整備を進める必要があるとの認識を示す。「人権という問題を原点から見つめ直す時が来ている。ストーカーとなっているヘリコプター離着陸帯（ヘルパッド）の工事に着手。警察当局が沖縄県外から機動隊員約500人を動員し、

【7月31日】

明仁、美智子◆リオデジヤネイロ・パラ

【7月31日】

明仁、

前回Xデー期間中の朝日ジャーナル掲載の文章を集めた本である。弓削達はローマ皇帝に対する死者裁判と言う制度を通してヒロヒトの戦争責任を問い合わせ、加納憲紀代は大塚英志の「少女たちの『かわいい』天皇」に反論し、河原宏は皇太子アキヒトのイメージ戦略が実は皇太子ヒロヒトに対するイメージ戦略の焼き直しだったことを指摘しつつアキヒトが「福祉的・恩赦的」天皇となる可能性を論じ、色川大吉はアキヒトと天皇制の今後に対する

反天連学園会『昭和の終焉』 1988.9—1989.2 天皇と日本人

(朝日ジャーナル編、朝日新聞社、一九八九年)

樂觀的な見通しを語る。他にも、荒俣宏のオカルト天皇論やライシャワーの天皇礼賛、さらに野村秋介の談話、亀井静香、山花貞夫・上田耕一郎の座談会までと実にバラエティーに富んでいるが、植民地から見た天皇像や代替わり儀式の違憲性を指摘する文章もきちんと入っている。編集部の文章はX-DIY状況のジャーナリズティックな報告と分析で、當時を振り返るには便利だが詰めは甘い。

口ヒトへの愛憎入り混じった複雑な感情だった。まだまだ充分愛は強いと見える人もいて、今更何を言つてるんだと笑われてしまうかもしかねないが、僕は言葉を失つた。ヒカルは、兵士や庶民（嫌な言葉だ）ならともなく、知識人は克服しているものと思いつ込んでいたのだ。この驚きは学生時代『かけ、わだつみのこえ』を読んで、当時の超エリート、知識人予備軍たる大学生たちが内面でどう考えようとも兵士として

ろうか。アキヒト自身は、天皇は憲法を超越した存在と考へてゐることが判明した現在（でなきや生前退位なんて本人が大っぴらに言えないと）でもこの勘違いは消えない。人々が恨みも憎しみも感じない王を廢するにはどうすればいいのだろうか。天皇自身がXデー開始を宣言しちまつたんだが。

* 次回は八月三〇日。横田耕一ほか『象徴天皇制の構造』（日本評論社）。

の意向報道——新たな天皇Xデー攻撃への最初の反撃の集会として開始された。
鈴木雄一さん（反戦反天皇制労働者ネットワーク・山形）は「東北（支配）と水産業」と題して「東北」、放流行事会場である「鼠ヶ関」（ねずがせき）という地名は、外敵の住む北のはずれを意味する蔑視感があふれている。さらに東北は戊辰戦争で朝廷にさからつて以降、仙台におかれた第一師団を中心に経済と行政がつくられてきたなど東北の歴史を語った。
今回山形「海づくり大会」の式典会場である酒田市も製鉄業など軍需産業のまちとして形成された。東北は「明治」に二回の天皇行幸が行われたが、その目的は
り、軍隊を通して天皇制が入って来るというのが東北の歴史であった。そして山形「海づくり大会」は福島原発事故による海洋汚染を隠蔽し、被害者切り捨ての天皇による鎮撫工作である。復興を演出のための、天皇のための行事であると弾劾し、現地闘争への参加を呼びかけた。
天野恵一さん（8・15反「靖国」行動）は、「天皇行事の政治的意図」と題して、今後の天皇儀礼は、全部Xデープロセスで演出される。棄民化政策、被災者の切り捨てを行なながら「震災の復興」を演出する。その総仕上げは、「復興」茶番の東京オリンピックだ。護憲派の総崩れの中で

8・15実前段集会—聖断—の
ウソ—天皇制の戦争責任を撃つ

〔違憲の行為はやめろ〕という土俵で共闘する運動をどのように作つていくかが問われていると訴えた。

新たなXデー攻撃の中で「8・15反『靖国』行動」や天皇行事反対闘争の重要性を実感させる集会であった。

(野村＝労活評)

8・15実前段集会 「聖断」のウソ—天皇制の戦争責任を擊つ

「聖断神話」と「原爆神話」を撃つ8・15反「靖国」行動は、今年も、七月三〇日の前段討論集会と八月一五日の当日行動の組み合わせとして進められている。

始まつたばかりの、天皇自身によつて領導される「天皇制の代替わり」過程のなかにあつて、そして同時に、安倍政権の推し進める「改憲」過程のなかにあつて、日本国家の植民地支配、戦争・戦後責任を、歴史として問い合わせながら、現在の私たちを含む社会全体にとつての課題として打ち出していくことは、より重要な意味を持つてゐる。

今回は、講師として、いつも私たちの行動に参加し伴走してくれている千本秀樹さん(日本近現代史研究)に、「『聖断』のウソ—天皇制の戦争責任を問う」と題した問題提起をしていただいた。

昭和天皇裕仁の終焉が近づいた時期に

は憲法を
か判明し
て本人が
勘違いは
も感じな
いのだろ
亘言しち

